

## 出場チーム紹介

## 少年女子

## 『守って、走って、守る』を徹底

## 水海道二高ハンドボール部



70年分の汗と涙がしみ込んだ校舎北側のグラウンドに、1年生10人・2年生5人・3年生15人・マネージャ



放課後のグラウンドで「守って速攻」の練習を繰り返します

ー2人の声が響き渡ります。歴史と伝統がもたらす独特の空気の中で毎日練習に取り組んでいます。

主将の竹村ひなた選手は「一生懸命なプレーで、勇気と感動を与えたい。そして、全国制覇を目指します」と意気込みを語りました。3年生で唯一の市内出身である細谷萌選手(内守谷町)は、プレー以外でチームを支える大切な存在です。けがなどで試合には出られませんが「支えていただいている地元へ恩返しをしたい。部員全員の力で勝利を掴みたい」と、話しています。

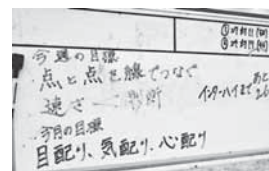


市内出身の7選手  
(右から2番目が細谷選手)

茨城国体まで、いよいよ2か月となりました。

今月号では、少年女子の部に出場する「県立水海道二高ハンドボール部」をご紹介します。同校は、言わずと知れた高校ハンドボール界の有名校。1950年の創部以来、60回を超える全国大会出場(国内最多出場回数)、8回の全国優勝を達成。2016年には、水害を乗り越え、全国選抜大会・インターハイ・国体の3冠達成という偉業を成し遂げ、常総市民栄誉賞を受賞しました。45年前、茨城国体の決勝戦で1点差で優勝を逃した悔しさを胸に戦います。

チームを率いるのは監督の飯田健一氏(新井木町)。「目立つ選手がいない分、基礎や基本をテーマに総合力で戦うために日々の練習に励んでいます。その成果を国体で発揮し応援してくれる子どもたちの憧れとなれるようにしたいと思えます」。部長は、3年前に3冠を達成した時の監督である飯村裕志氏(新石下)。「強豪校に体格では劣るが、常に進化を続けるチーム。国体までに大きく化ける可能性がある」。



自分たちで目標を決めて練習に励みます

また、2人は「前回の茨城国体で準優勝に終わったことは語り継がれています。45年ぶりに忘れ物を取りに行きます」と強い思いを抱きながら「今年2月に他界した、監督として校長先生として水海道二高ハンドボール部に多大なる貢献をされた鈴木孝八郎先生に良い報告をしたいと思えます」と話していました。



飯田監督(左)と飯村部長(右)この2人の情熱が選手たちを突き動かします

## 常総市の炬火名決定!

## ありがとう 常総から広がり つながれ 感謝の火

【考案者】稲見 真奈さん(石下西中1年)

【炬火名に込めた思い】「水害の時はたくさんの品物や気持ちをいただいたので、恩返ししたいと思いました」